

オリンピック・パラリンピック気運醸成及び大会開催後のスポーツ振興について

1. オリンピック・パラリンピック気運醸成への取り組み

区は、東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会の開催に向けて、オリンピック・パラリンピアン等のトップアスリートを招聘した競技種目の体験会や講演会、公式種目の観戦事業やスポーツ大会のパブリックビューイング等を実施することで、区民の気運醸成に取り組んできました。

また、大会開催後を見据え、区民で構成するオリンピック・パラリンピック推進実行委員を募集し、委員が事業を企画・立案、運営するなど、区民による自主的なスポーツ活動の促進を図ってきました。

新型コロナウイルス感染症の影響により大会開催が2021年に延期されるとともに、各種スポーツ活動が休止されている状況ですが、厚生労働省が示した「新しい生活様式」や、スポーツ関係省庁や団体が作成したガイドライン等を参考に感染症対策を講じ、スポーツ活動の再開及び大会気運醸成に引き続き取り組んでいきます。

令和元年（平成31年）度の取り組み実績

事業名	実施日	概要	参加者数
東京2020大会正式種目「3×3」観戦イベント	6/1	Bリーグ所属チームによる3×3カップ、チアリーディングパフォーマンスなど	854
東京2020大会開催1年前カウントダウンイベント	8/4	トランポリン・空手・新体操・車椅子ラグビー・車椅子バスケのデモンストレーションなど	650
ラグビーワールドカップ2019日本大会パブリックビューイング	9/20	日本対ロシア戦	500
体育の日スポーツイベント	10/14	ラグビー・ボッチャ・ホッケー・5人制サッカーの体験コーナーなど	350
東京2020オリンピック・パラリンピック関連コーナー in 2019 東北復興大祭典なかの	10/26、27	VRフェンシング、フォトスポット、スタンプラリー	1,802
地域まつり協力事業 なべよこ夏まつり内 東京2020大会応援イベント バレーボール企画	8/3	デモンストレーション、トークショーなど	250
地域まつり協力事業 桃園地区まつり内 東京2020大会応援イベント 陸上企画	10/20		250
地域まつり協力事業 鷺宮地区まつり内 東京2020大会応援イベント 陸上企画	10/27		150
中学校競技力向上事業	1/13、2/8、11	野球	142
	2/16、23	女子バスケットボール	88

※東京2020大会に向けた開催100日前カウントダウンイベント（3/15）、卓球&パラスポーツ体験イベント（3/21）は、新型コロナウイルス感染症拡大予防のため中止。

2. 区民の意識からみる大会開催後のスポーツ振興について

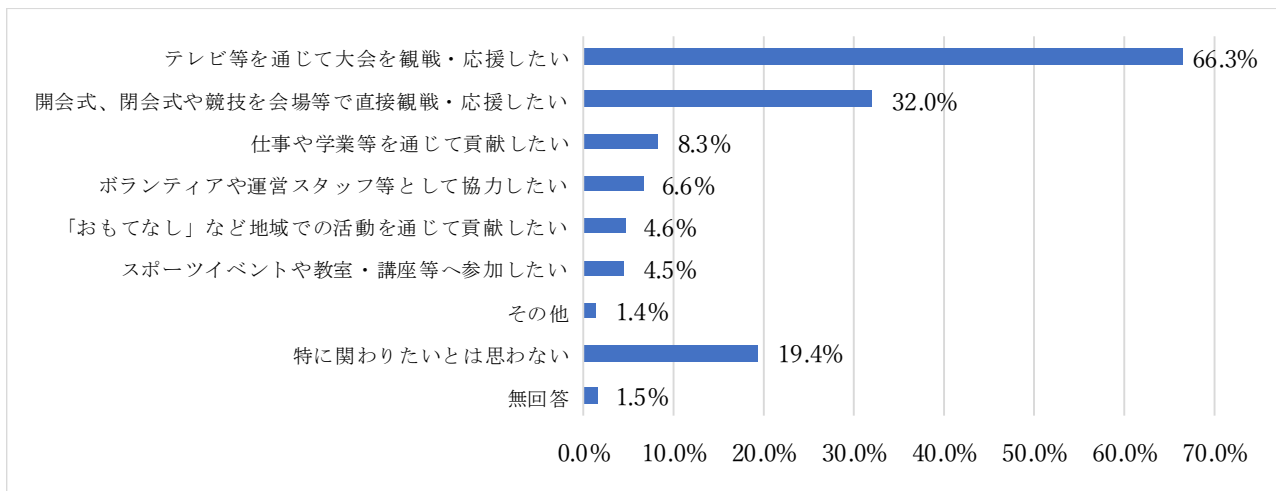
図1は「東京2020大会に対し、どのような形で関わりたいか」についての区民への調査結果です。「テレビ等を通じて大会を観戦・応援したい」が66.3%と最も高く、次いで「開会式、閉会式や競技を会場等で直接観戦・応援したい」が32.0%と、多くの人が観戦・応援に興味があることがわかりました。

大会終了後は、区民のスポーツへの興味、関心が低下することが懸念されます。令和2年度に開設される中野区立総合体育館は、メインアリーナをはじめとして各種競技の公式試合に対応する規格となっており、区民によるスポーツ利用だけでなく、パブリックビューイング等の観戦事業や、全区的、全国的な競技大会やトップアスリートによる試合等の会場として施設を活用し、身近な場所で多種多様な、高いレベルのスポーツに触れることで、スポーツへの興味、関心を高めていきたいと考えています。

一方、「ボランティアや運営スタッフ等として貢献したい」は6.6%と低く、スポーツを支える意識が低いことがわかりました。

区民に対し、「する」「みる」「支える」といった多様な形でスポーツ参画を推進していくことが重要です。東京2020大会の気運醸成事業に実行委員として関わってきた区民が中心となり、活動を通じて得た事業の企画、運営のノウハウや人材のネットワーク等を活かし、区内の各種スポーツ事業等を区民が支援していく体制の構築に取り組んでいきます。また、地域スポーツクラブが中心となり、引き続きスポーツ指導者の養成に取り組むとともに、ニーズとのマッチングや人材の有効活用に取り組みます。

図1 「東京2020オリンピック・パラリンピックに対して、どのような形で関わりたいか」



【出典】「令和元年度（2019年度）中野区健康福祉に関する意識調査」より。

3. 大会開催を契機とした障害者スポーツ振興と今後の取り組みについて

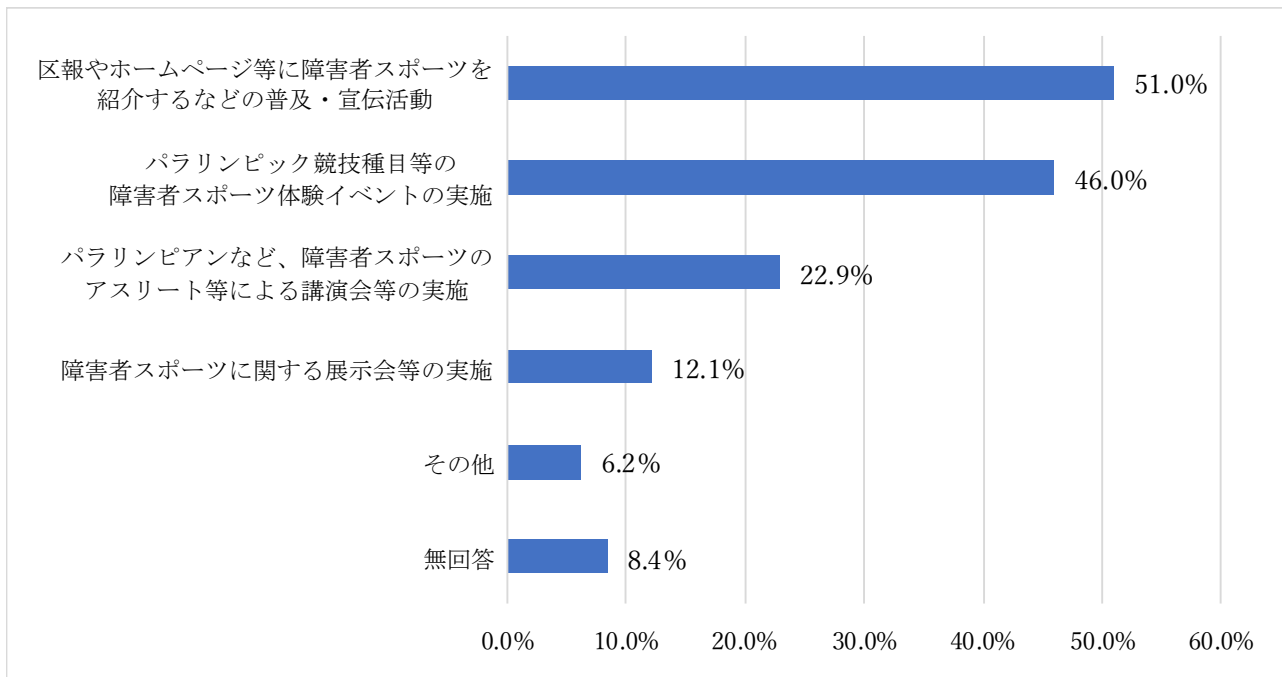
図2は「パラリンピック・障害者スポーツを理解し広めるために区が重点的に行うべきこと」についての区民への調査結果です。「普及・宣伝活動」が51.0%と最も高く、次いで「体験イベント実施」が46.0%、「パラリンピアン等による講演会等の実施」が22.9%でした。

東京2020大会開催を契機に、障害者スポーツの認知度の向上や、ボッチャなど年齢、性別、障害の有無等に関わらず楽しめるユニバーサルスポーツの普及が進んでいます。多種多様な区民の相互理解

を深める手段として、障害者スポーツ、ユニバーサルスポーツは有用なものであると考えます。

今後も体験イベント等により区民の知る機会、体験する機会を提供していくとともに、障害者スポーツ指導者の養成や、スポーツ推進委員等による区内各地域や施設への出張指導など、競技に取り組む区民を支援していきます。

図2 パラリンピック・障害者スポーツを理解し広めるために重点的に行うべきこと



【出典】「令和元年度（2019年度）中野区健康福祉に関する意識調査」より。

【参考】ボッチャについて

赤、青のサイドに分かれ、ジャックボール（目標球）と呼ばれる白いボールに、赤・青それぞれ6球ずつのボールを投げたり、転がしたり、他のボールに当てたりして、いかに近づけるかを競います。

性別、年齢、障害の有る無しに関わらず、一緒に参加し、競え合えるスポーツとして近年注目されています。

令和元年度 ボッチャ大会の様子（中野区スポーツ推進委員との共催）

